造園通信

発行元：中込造園
広報係
甲斐市牛句
https://nakagomizouen-mana.com/
発行日：2023.7.1

お庭の管理

草取りの時期になって悩んでいる方も多いのではないでしょうか。草取りをしなくてもよい環境を整えるのは基本2つ点です。一見大変だからそうしてしまおうか…と思うかもしれませんが、風情は0です。庭の地割（ゾーニング）を考えて植物を植えない箇所や人の通る場所などにそのようなことを施しあとは草取りをする　ということが所謂「管理」するということです。草を根から取らないと!と言いますがそんなことはないです。狩るだけで結構。草が伸びてから一斉にやるというのも　草が増える環境を整えてしまっているのでNG。まずは草刈りをしてそのあとは少しづつ草取り　をしていけば良いです。これは習慣にするとそんなに苦にもならず、逆に綺麗になるので達成感が味わえ気持ちの良いものです。さらに草取りをしながら植木の根本などを見て虫が入っていないか、或いは土中に幼虫がいないか　どんな虫が多いか　などの発見もできます。秋まで是非「庭の管理」をして綺麗な庭を保ちましょうね!私共も　従業員が膝をついて綺麗に日々狩り続けています。

①防草シートを貼って砂利・石類を敷く
②コンクリートで埋め尽くす。（※除草剤をまくというのもありますが植物は植えられません）の2

時代は自給自足？

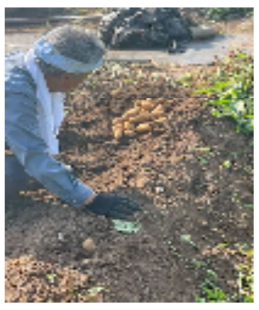
～家庭菜園が人気上昇中～

近年人気のある家庭菜園。ホームセンターでも野菜の苗の販売コーナーが年々大きくなってきています。「植えて水を上げればいいんでしょ?」という人が多いですがそれは違います。生き物なので人間と同じ。草取りをして環境を整え　そもそも土質や水はけもよくしてあげ、追肥をあげ　手間暇かけてようやくできる野菜。農家さんの苦労を感じます。そうやって自分で作った野菜　は有難みを感じますよね。うちにも勝手に野菜畑を作った人が毎日水やり　草取りをしながら無事　人生初の野菜収穫をしてこのうえない喜びをした人がいます。良かったですね。

写真※人生初の自分で作った野菜収穫に喜びの舞（ひとみちゃん）

野菜作り専門家

本誌でも何度かご紹介していますが社長は作物が大好き!というより「上手に作る」ということに強い思いがありそれを行動にして勉強しながら数十年。これまた本当に上手です。今年もジャガイモ収穫は大量に、玉ねぎも大量に　どれも本当においしくて従業員にもたくさん分けてくれました!（はい!これ給料な!（おいおい・・・））家庭菜園をやられている方は社長に聞くと勉強になりますよ!あとは努力のみです。

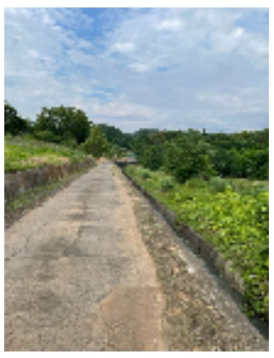


専務も畑をやっていますが共通していることはやっぱり奇麗です。

下：専務の家庭菜園

一日一善

専務のモットーは「一日一善」だそうです。前はそっと言ってましたが「今日　俺誰にも喜ばれてないな…」と。「なんですかそれ?」と聞くと「何か良いことしないといけないんだよ」と。夕方閉店してから帰ると思ったら狩払い機を持ち出して軽トラックで山を下って行ったと思ったら　地域の草刈りをしたそうです。なんでこんなところまでやるんですか?と聞くと「ここは大勢の人が散歩をしたりランニングをしたりする気持ちよく人が歩けるようになる」と言っていました。良いことですけどね・・・彼のエネルギーの元はなんなんでしょか・・・

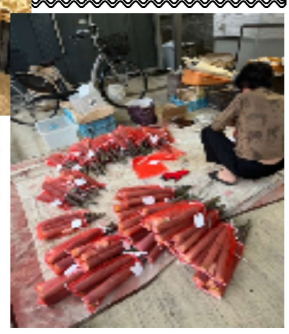


【大爆笑】タケノコの出荷も終わりひと段落とトラックで信号待ちしているとマラソンの集団が。何か不自然だな・・と何気なく見るとバトンを持ってマラソン?「ん?」バトン?「タケノコじゃん!」これには大爆笑です。目的はわかりませんがその後も軽快に走り去っていきました。

トラック導入★

今まで2tトラックをメインに活動していました。仕入れするにもお庭の準備をするにも2tではもうもう限界…ということで今回は中型ユニックを入れました。これで仕入れもお庭の段取りも効率よくなります。

今年の筍の出荷も25日をもって終了しました。毎朝4：00～出荷準備　灰汁抜きをして出荷するから大変な作業です。



庭師の
作業＋任務＝仕事

庭造りで一番大切なことは地割（ゾーニング）ということを言われていますが、それ以上に大切なことは整地です。家でいうと基礎です。整地作業は拘りぬいて可能な限り平にしたほうが見栄えもよく仕上がりが全然違います。重機でガンと一発やっつけて砂利を敷いたりしている業者さんもいます（それが悪いというわけではありません）が、重機の後はトンボで均しながら丁寧に仕上げると良いでしょうね。そのうえでゾーニングです。どこに何の木を植えるのか、その植木の目的は景観?防犯?果実?ただ好きで綺麗だから植える　では　植木も住人も後々困ります。場所も大きさも種類もバランスを考慮して配置することが大切ですね。私たちが提案する庭は10年後を見添えて提案します。その時だけ!ということであればそれは素晴らしいものができるでしょう。しかしそれはNGです。庭というのはこれから末永く一緒に成長していくものですから、雑誌やモデルガーデンは最終形という認識を持つと良いでしょう。

私たちお庭の仕事をしていますが造園の仕事って何だとおもうか?聞くと「木を切ること」「植えること」「奇麗にすること」と　どれも行いますがこれらは作業ですね。私たちの仕事はお庭造りで言えば設計の前のお打ち合わせでは悩み相談や将来設計などのきく言わば相談所から始まり、設計でデザイナーとなり、施工ではアーティストとなり、庭木状態を見るときには医師になりとちょっとかっこよく言いますが変身しながらやるのが私たちの任務であり、では仕事とは?と聞くと専務曰く「庭」を通じて喜ばれ必要とされ続けることだ」と言っていました。庭に関係なくても良い、来られで出会ったお客様に笑ってもらい楽しんでもらいまた来たいと思ってもらうことでその答え合わせは「中込造園に頼んでよかった」と言ってもらえた時に仕事をした　ということになる。　社長が畑をやってその野菜どうしてる?お客さんに差し上げたりしてるだろう?専務がなぜ野菜を作ってる?家庭菜園のお客様と目線を合わせてアドバイスしてるだろう?畑で何も採れない春はじめは山菜を採ってきてお客さんにあげたり蕎麦屋さんにおろしたりしてるだろう?すべてそれらに繋がってるんだよと言っていました。ん～深い。これを聞いてさらに頑張ろうと思いました。私も目的達成のために一生懸命喜ばれるようにやろう!と思います。これからも中込造園をよろしくお願いいたします。

社長大好き♪

数か月前まで野良猫で逃げ回っていたとは思えない。昼は事務所の中で仰向け昼寝。社長が来るとべったり。幸せそうな猫です。

（妊婦ではありません。ただの肥満です）

下草

低木やグランドカバーなど、主木となるシンボルツリーの足元に植栽する下草。そもそもシンボルツリーの下草ってなんで生やすの?下草（したくさ）とは、シンボルツリーや背の高い樹木の足元に植える、低木やグランドカバー、草花、球根植物の総称です。下草を効果的に使うことでシンボルツリーがより引き立ち、植栽全体に動きを出すことができます。冬に葉を落とす落葉樹のそばに常緑の下草をしつらえることで、秋～冬の景観を保てる効果もあります。また、地表の乾燥や温度上昇、真夏の直射日光から植物を守るなど、機能面でも役に立つ存在です。特に、乾燥に弱い植物の足元は、常緑性の下草でカバーしてあげるのが良いでしょう。シンボルツリーの引き立て役であると共に、乾燥や雑草から地表を守ってくれる存在でもあります。地表を覆うグランドカバーの植物は、雑草対策にもなります。「下草はこの植物ではなくてはならない」という明確なルールはありません。樹高1.5mまでの低木や、地面を這うように育つグランドカバーのほか、草丈が1m程度までの宿根草や、季節の草花も下草として植えることができます。当園にも沢山の下草をご用意しています。そのほか流木など合わせてアレンジでしてみるのもおもしろいですね。この夏はシンボルツリーのイメチェンをしてはいかが?

北杜市に5月オープンしたカフェです。とても良い場所なので紹介しますね!ぜひ行ってみてください★